

使い方ガイド

防災ひなんナビ

警報を検知して、いまいる場所から最寄りの避難場所へ。

Android版　ver 1.0

creator7
creator7.jp
2026年10月

1 このアプリでできること

「防災ひなんナビ」は、スマートフォンに届いた**警報**を自動で見つけて、**その時いる場所**から **災害の種類に合った最寄りの避難場所**を探し、地図アプリで**ルート案内**を始められるアプリです。



警報を自動で検知

エリアメール（緊急速報）、Yahoo!防災速報、ニュースアプリの通知、気象庁の発表を見張ります。



いまいる場所を確認

警報が届いた時点の位置をGPSで調べます。自宅でも外出先でも、その場所を基準に探します。



合った避難先へ案内

津波なら津波、土砂なら土砂に対応した「指定緊急避難場所」を選び、Googleマップで案内します。

警報が届いてから案内までの流れ

STEP 1
警報が届く
エリアメール
ニュース通知
気象庁の発表

›

STEP 2
内容を判定
災害の種類と
警報のレベルを
読み取る

›

STEP 3
現在地を確認
GPSで
いまいる場所を
測る

›

STEP 4
避難先を検索
種類に合った
最寄りの
避難場所

›

STEP 5
ルート案内
通知の
「ルート案内」で
地図が開く

対応している主な警報

台風・暴風／大雨／洪水・河川氾濫／土砂災害／高潮／津波／ミサイル（Jアラート）／地震／火山噴火／大規模火災／自治体の避難指示 など

> **アプリが使うデータ**
> 避難場所は国土地理院の「指定緊急避難場所データ」、気象情報は気象庁の「防災情報XML」を使っています。どちらも国や市町村が公開している情報です。

2 はじめに：初期設定

警報を自動で見つけるために、最初に下の5つを設定します。アプリを開くと、画面の一番上に**「初期設定」**が表示されます。⚠️の行の**「設定」**を順に押してください。全部✅になれば準備完了です。



1 通知の読み取り 必須

一覧から「防災ひなんナビ 警報検知」をONにします。エリアメールやニュースの通知を読み取るための、一番大切な設定です。

2 通知の表示 必須

「許可」を選びます。避難先のお知らせを出すために使います。

3 位置情報（GPS） 必須

「アプリの使用中のみ許可」を選び、「正確な位置情報」をONにします。

4 位置情報を「常に許可」 必須

設定画面で**「常に許可」**を選びます。これが無いと、アプリを閉じている時に届いた警報で現在地を測れません。

5 電池の最適化を無効化 推奨

「すべてのアプリ」から防災ひなんナビを探し「最適化しない」にします。省電力機能でアプリが止められるのを防ぎます。

🔒「制限付き設定」と表示されて通知の読み取りをONにできないとき

Android 13以降では、Google Play以外から入れたアプリは、セキュリティのため「通知へのアクセス」が最初はONにできません。次の手順で解除してください。

1. 「制限付き設定」のダイアログを一度出して、**OK**で閉じる
2. アプリの初期設定に出る**「アプリ情報を開く」**を押す（または 設定 → アプリ → 防災ひなんナビ）
3. 右上の**「⋮」→「制限付き設定を許可」**を押し、指紋やPINで認証する
4. もう一度「通知の読み取り」の「設定」から、防災ひなんナビをONにする

設定が終わったら、もう1つだけ

自宅や職場で**「現在地周辺のデータを事前ダウンロード」**を押しておきましょう（くわしくは5章）。災害時に電波が届かなくても避難先を探せるようになります。

3 画面の見かた

警報を検知すると、画面上部に**最新の警報と避難先の一覧**が出ます。



1 最新の警報

警報の種類とレベル、届いた時刻、どのアプリから届いたかを表示します。

2 とるべき行動

災害ごとの避難のポイントです。まずここを読んでください。

3 避難先の一覧

近い順に最大5か所。**★最寄り**が一番近い場所です。距離・徒歩の目安・その場所が対応している災害の種類も表示します。**「ルート」**を押すとGoogleマップのナビが始まります。

4 手動で避難先を探す

災害を選んでボタンを押すと、いまの場所から避難先を探せます。避難訓練や動作確認に使えます。

5 避難場所データ

電波が無くても使えるよう、周辺の避難場所データを保存します（5章）。

6 警告音

警告音のON/OFF、音量（0〜100%）、鳴らす長さ（10・30・60秒）を設定します。**「試し鳴らし」**で音の大きさを確かめられます（4章）。

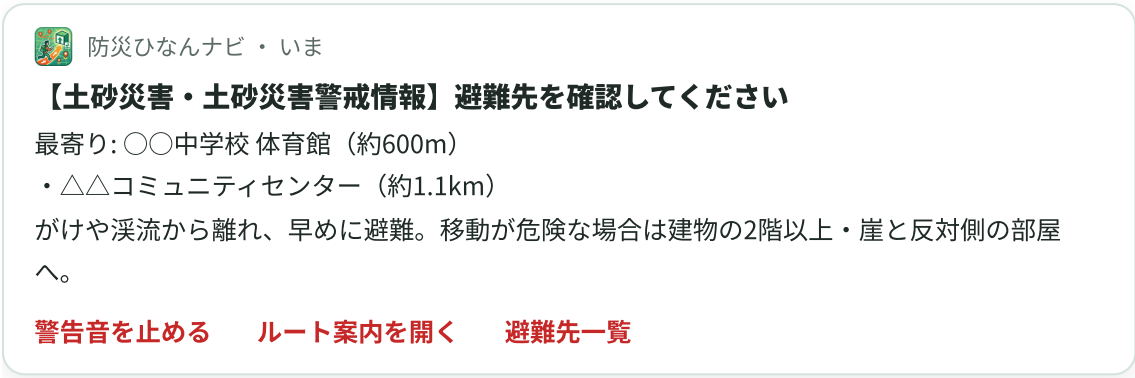
7 検知の設定

注意報も対象にするか、気象庁の発表を確認するかなどを切り替えます（5章）。

画面の下には検知の履歴と、開発元creator7の表示があります。

4 警報が届いたとき

警報を検知すると、**警告音とバイブ**で次のような通知が出ます。アプリを閉じていても、画面が消えていても届きます。



避難のしかた

1. **周りの状況を確かめる**
   まず身の安全を確保し、通知に書かれた「とるべき行動」を読みます。

2. **「ルート案内を開く」を押す**
   Googleマップが開き、最寄りの避難場所までの**徒歩ルート**が表示されます。

3. **ほかの候補も見る**
   「避難先一覧」を押すとアプリが開き、近い順に候補が並びます。道が通れない時は別の場所の「ルート」を押してください。

> **大切なお願い**
> 地図のルートは、浸水・がけ崩れ・建物の倒壊などの**危険を考えていません**。冠水した道や川沿い、がけの近くは避け、**市町村の避難情報・消防・警察の指示を最優先**にしてください。外に出る方が危険な時は、建物の高い階や頑丈な部屋にとどまる判断も大切です。

警告音について

警告音は**アラーム音**として鳴るので、マナーモード中でも鳴ります。止めるときは、通知の**「警告音を止める」**を押すか、通知をタップしてアプリを開くか、通知を消してください。設定した長さ（初期値30秒）が過ぎると自動で止まります。 音量・ON/OFFはアプリの**「警告音」**で変えられます。OFFにしても通知とバイブは届きます。実際の大きさは「端末のアラーム音量 × アプリの音量」なので、端末のアラーム音量が0だと鳴りません。
なお、同じ種類・同じレベルの警報は**10分間に1回**だけお知らせするので、続報のたびに鳴り続けることはありません。

5 対応する警報と、ふだんの準備

警報ごとに案内する避難場所

指定緊急避難場所は、市町村が「この災害の時に使える場所」を災害の種類ごとに決めています。アプリは警報に合った種類を優先して探します。

警報の種類	案内する避難場所（優先順）
津波	津波に対応した場所
ミサイル（Jアラート）	地震に対応した場所（頑丈な建物）。あわせて屋内退避の行動を表示
土砂災害	崖崩れ・土石流・地滑り → 無ければ洪水
洪水・河川氾濫	洪水 → 無ければ内水氾濫
大雨	洪水 → 内水氾濫 → 土砂
台風・暴風	洪水 → 高潮 → 土砂
高潮	高潮 → 無ければ洪水
地震	地震に対応した場所
火山噴火	火山現象に対応した場所
大規模火災	大規模な火事に対応した場所
避難指示など	地震 → 洪水 → 土砂 → 津波

合う種類の場所が約15km以内に無い時は、他の種類の避難場所を表示し、その旨をお知らせします。

ふだんやっておくこと

1. **避難場所データを事前ダウンロード**
   「現在地周辺のデータを事前ダウンロード」を押すと、約15km四方の避難場所を保存します。**自宅・職場・学校など、よくいる場所ごと**に一度ずつ実行しておくと安心です。

2. **避難訓練をしてみる**
   「災害を選んで避難先を探す」で災害を選び、案内される場所を確認しておきましょう。災害の種類で避難先が変わることがわかります。

3. **検知の設定を見直す**
   注意報でも避難先を案内する：早めに動きたい方はON。
   気象庁の発表を15分毎に確認：通知を取り逃した時の備え。ONのままがおすすめです。
   すべてのアプリの通知を判定：お使いのニュースアプリが監視対象外の時にON。

6 よくある質問・ご注意

Q. エリアメールが鳴ったのに、アプリが反応しません。

「通知の読み取り」がONか確認してください。機種によっては、エリアメールが画面いっぱいの表示だけで通知を残さないことがあります。その場合も、気象庁の発表確認（15分毎）で検知できます。

Q. ミサイルの警報も気象庁の確認で分かりますか？

いいえ。Jアラート（ミサイル）は気象庁の情報に含まれないため、エリアメールやニュースアプリの通知から検知します。

Q. 「現在地を取得できませんでした」と出ます。

位置情報がOFFか、「常に許可」になっていない可能性があります。初期設定を見直してください。測れない時は、最後に測った位置を使います。

Q. 「避難場所データを取得できませんでした」と出ます。

電波が無く、データも保存されていない状態です。電波のある場所で「事前ダウンロード」を実行してください。

Q. 表示される距離と、実際の道のりが違います。

一覧の距離は直線距離です。徒歩時間は道のりを直線の約1.3倍、時速4kmとして計算した目安です。正確なルートと時間はGoogleマップで確認してください。

Q. ほかの県のニュースでも反応しますか？

ニュースアプリの通知は、本文の都道府県名を見て、いまいる県と関係ない記事は対象外にします。エリアメールとYahoo!防災速報は地域を絞って届くので、そのまま対象にします。

Q. バッテリーの減りは大きいですか？

ふだんは通知を待っているだけなので、ほとんど電池を使いません。GPSは警報を検知した時だけ使います。

> **ご注意**
>
> 本アプリは避難を手助けする道具です。すべての警報を必ず検知することや、案内した場所・ルートの安全を保証するものではありません。 テレビ・ラジオ・市町村の防災無線などの情報もあわせて確認し、ご自身の判断で早めに避難してください。

開発・お問い合わせ

creator7　— 社会に役立つAndroid／Windowsアプリを開発しています。

Web：creator7.jp

メール：creator7.jp@gmail.com

出典：国土地理院「指定緊急避難場所データ」／気象庁「防災情報XML」

Google マップは Google LLC の商標です。